

基調講演 ①



「連携を可能にする教師の力
～つながり重視の日本語教育～」

嶋田 和子 先生

アクラス日本語教育研究所代表理事

2018年 日本語教育シンポジウム
「初中等日本語教育のスタンダードおよび高等教育との連携」 2018.10.6

連携を可能にする教師の力
～つながり重視の日本語教育～

嶋田 和子
アクラス日本語教育研究所
kazushimada@acras.jp

1

「日本語教育シンポジウム」との関わり

2013年「モンゴル日本語教育スタンダードの展開」
講演：教科書『できる日本語』の開発

2014年「モンゴル日本語教育スタンダードの実践と教材開発」
WS：日本語教育スタンダードと教材開発

2015年「スタンダード教科書の開発と教師の役割」
WS：教師の役割を考える

2

『にほんご できるモン』誕生ストーリー
～モンゴルで生まれた、モンゴル人学習者のための教材
<http://www.acras.jp/?p=3927> (2015.3.19)

3

それ以外の「モンゴル日本語教育」関連の記事

「モンゴルの日本語教育は熱い！」
(2013.5.26) <http://www.acras.jp/?p=1458>

「モンゴル日本語教師会、外務大臣賞受賞！」
(2013.11.11.) <http://www.acras.jp/?p=2098>

「日本式の教育をめざす「新モンゴル高校」を訪ねて
～人づくりは、国づくりから～」
(2014.3.26) <http://www.acras.jp/?p=2545>

※「モンゴル便り:孤児院『太陽の子ども達』の教育
～子ども達の自立に必要な事～」
(2015.4.20) <http://www.acras.jp/?p=4043>

大平緑さん
JICA
ダルハン市

4

2018年「初中等日本語教育のスタンダード
および高等教育との**連携**」

連携がうまくいくためには？

それぞれの組織
&
一人ひとりの教師の
資質・能力が求められる！

5

2015年「教師の役割」について見ると・・・

良い教師(要約)

- ・すぐれた教師であるには、学習者を観察するだけでなく、洞察することができる。
- ・学習者に、気づかせることができる。
- ・学習者の力を引き出すことができる。

6

学習者が言語運用能力を向上させたいのであれば、教師が取るべき役割は、自分自身を「舞台上に上がった賢人」に見立てるような伝統的なものではなく、むしろ、「側に付き添う案内人」というようなものになるはずである。すなわち、教師側からの話を最小限に抑え、学習者が発話に参加する機会を最大限に増やすという役割である。
(『ACTFL-OPI試験官養成マニュアル』p.121 アルク)

最高の教師は???

学習者の心に火をつける！

7

2018年度
より広い視野で、「教師の役割」について考える

対学習者 対教師

↓

もっと外に目を向ける。
→「連携」の大切さ！

そのためには、教師としてどんなことが求められるのか？

8

日本における「日本語教師教育」に関する新しい動き

例

2018年3月 文化庁報告書

「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」(報告)

http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afieldfile/2018/06/19/a1401908_03.pdf

9

◆役割

(1)日本語教師 (2)日本語教育コーディネーター
(3)日本語学習支援者

◆段階

(1)日本語教師
①養成 ②初任 ③中堅

◆活動分野

【国内】留学生、生活者としての外国人、児童生徒等、技能実習生・・・
【海外】初等中等高等教育及び成人に対する日本語教育、日系人等に対する継承語教育

10

日本語教育人材に共通して求められる基本的な資質・能力

報告書(p.18)

- (1) 日本語を正確に理解し的確に運用できる能力を持っていること。
 - (2) 多様な言語・文化・社会的背景を持つ学習者と接する上で、文化的多様性を理解し尊重する態度を持っていること。
 - (3) コミュニケーションを通じてコミュニケーションを学ぶ⁽¹⁾という日本語教育の特性を理解していること。
- (1) 日本語教育とは、広い意味で、コミュニケーションそのものであり、指導者と学習者とが固定的な関係でなく、相互に学び、教え合う実際のコミュニケーション活動と考えられる。

11

専門家としての日本語教師に求められる資質・能力

日本語教師は、単なる言葉のインストラクターではない！！

報告書(p.18)要約:

- (1) 実践的なコミュニケーション力
- (2) 多様な言語・文化への理解
- (3) グローバルな視野
- (4) 社会的意義についての自覚と、学び続ける態度
- (5) 日本語教育を通じた人間の成長と発達への関心

12

日本語教師【初任】(留学生)に求められる資質・能力

報告書(p.22)

知識	技能	態度
[1] 留学生に対する指導の前提となる知識	[1] 教育実践のための技能	[1] 言語教育者としての態度
[2] 日本語の教授に関する知識	[2] 成長する日本語教師になるための技能	[2] 学習者に対する態度
	[3] 社会とつながる力を育てる技能	[3] 文化的多様性・社会に対する態度

13

◆技能

【3 社会とつながる力を育てる技能】

(7) 教室内外の関係者と学習者を **つな**ぎ、学習者の社会参加を促進するための教室活動をデザインすることができる。

人・社会とつながる日本語教育

14

◆態度

【1 言語教育者としての態度】

- (1) 複数の教員でクラスを担当するチームティーチングについて理解し、講師間で **連携** 協力を図ろうとする。
- (2) 日本語学習だけでなく、進路選択に関しても担当者と **連携**し、多様な関係者と **共に関わり**、指導を実践しようとする。

【3 文化的多様性・社会性に対する態度】

- (5) 学校外の地域社会や他者との **つな**がりを持つことの意味を理解し、社会と **つな**がる機会提供に努めようとする。

15

日本語教師に対する養成・研修

報告書(p.30)

段階	養成・研修の在り方
養成	(省略)
初任	(省略)
中堅	○活動分野を限定せず、 分野横断的 に必要とされる教育内容を扱うとともに、 所属機関・組織を超えて 日本語教育全体に対する視野を養つための実践課題持ち寄り型といった現場の課題に取り組む形式の研修を大学等の教育・研修機関において受講

16

連携を可能にする教師力をつけるには

- 1) 教育現場での実践の共有、多様な対話の積み重ね
- 2) 所属機関・組織を超えた研修会の実施
 ※小さな研修会から始める
 例: LT会(ライトニングトーク Lighting Talk)

地理的な問題を解決する方法
 ➡例:「Zoom会議」の活用

17

17

Zoom 「対話を通して自分と日本語教育に向き合う
 ～日本語教育×オンライン×ワールド・カフェ」
 (報告: 荻野雅由) (2017. 6. 30)
<http://www.acras.jp/?p=6987> 12か国、48人で実施



18

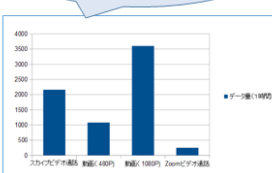
18

Zoomの7つの特徴(田原真人)

https://zoom-japan.net/blog/zoom_point7/

- ① 1クリックでつながる
- ② 1クリックで録画できる
- ③ 接続が安定している
- ④ 50人まで同時接続可能
(※オプションで500人まで可能)
- ⑤ ブレークアウトルーム
- ⑥ スマホからもつながる
- ⑦ 多機能で使い方無限大

データ通信量は、スカイプの10分の1



19

19

「連携」を見ると・・・

連携
 お互いに連絡を取り、協力して物事を行うこと

- ・協力＝助け合うこと
- ・連携＝同じ目的で何かをしようとする

今回のシンポジウムは、
 「初中等教育と高等教育との連携」 ➡ タテの連携

20

20

MVP + A

MVPを見える化し、発信し、共有することが大切

Mission Vision Passion

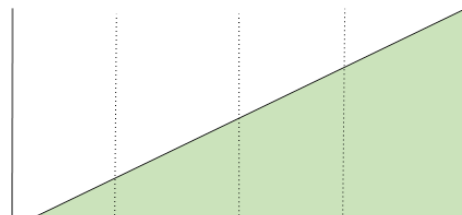
↓

Action

21

21

タテの連携①-a

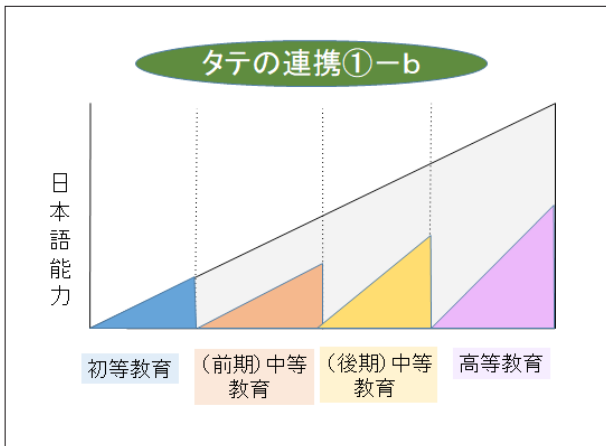


日本語能力

初等教育 (前期)中等教育 (後期)中等教育 高等教育

22

22



23

レベル	タイトル	行動目標
初級3課	スケジュール	これからの生活や周りの人との関係づくりのために、予定を聞いたり身近なことを話したりすることができる。
初中級3課	私の目標	自分の目標や計画を話したり進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。
中級3課	時間を活かす	これからの自分にとって有意義な過ごし方を考えて、周りの人と生活の工夫や時間の使い方などの情報をやりとりすることができる。

24

レベル	タイトル	行動目標
初中級3課	私の目標	自分の目標や計画を話したり進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。

ST1 「これからの計画」
 来日の目的や今後の目標、計画などを話すことができる。

どんな文法項目を学んだらいいですか？

25

★
 Vたら、～
 Vようと思っています
 授業が終わったら、何をしますか。
 ⇒説明会に行こうと思っています。

Vるつもりです
 Vないつもりです
 この学校を卒業したら、どうしますか。
 ⇒日本の会社で働くつもりです。

Can-do-statementと文法項目のつながり (タテ・ヨコのつながり)

26

タテの連携③ ポートフォリオの活用

【学習者】
 ・楽しみながら自分の成長を確認できる。

【教師】
 ・それぞれの学習者の学びを、タテ軸で知ることができる。
 ・学習者がどういふプロセスを経て「今」があるのか、より深く理解することができる。

27



28

★

参考:「ヨコの連携」

他機関とのつながりで生まれる
「新たな学び」

29

★

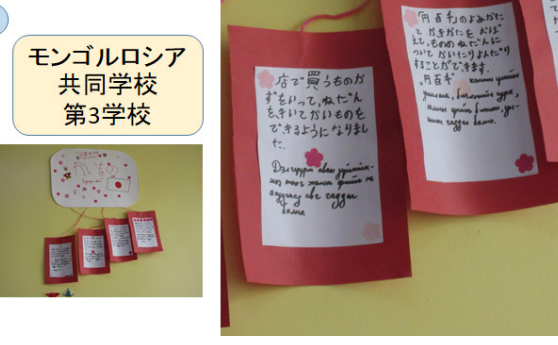
54番学校



30


★

モンゴルロシア
共同学校
第3学校



31

★



32

★



33

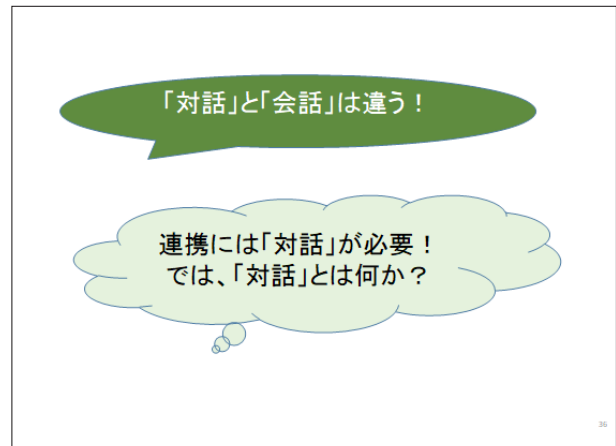
視野の広い日本語教師になるために

- ◆虫の目、鳥の目、魚の目を持つ。
- ◆人・社会、事物・・・との「対話」を重ねる。

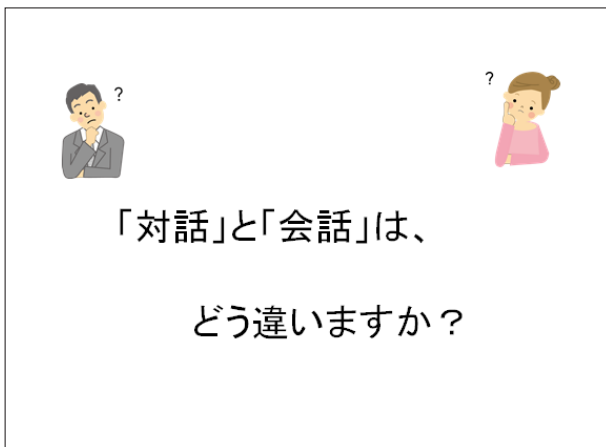
34



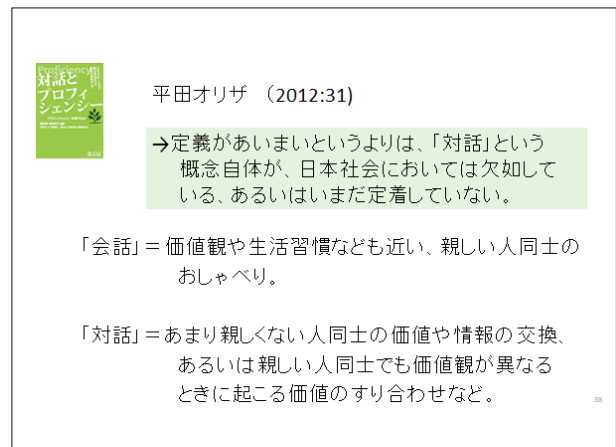
35



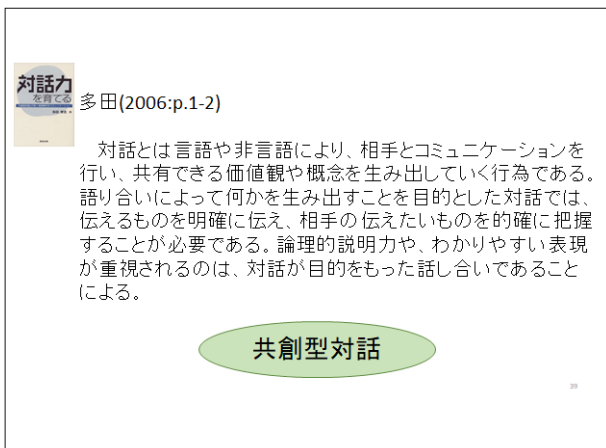
36



37



38



39



40



41

「初中等教育と高等教育との連携」が可能になると？

- ・日本語を学ぶこと・教えることが効果的に行える。
- ・異なる機関・分野の人々との出会い・対話によって、新たな発見がある。
- ・教師力に幅が出来、さらにアップすることができる。

より楽しい教育実践が可能になる！

42

より良い教師をめざして

佐藤学(2015) 21世紀の教師像

◆「教える専門家」から「学びの専門家」へとシフトしている。

授業技術を中心とするものから、子どもの学びのデザインとリフレクション(省察)を中心とするものへと変化している。

43

校内研修の改革 多様な連携が必要！

- ◆どんなに優れた授業を行っていても、授業を公開しない教師は、子どもを私物化し教室を私物化し、教職を私物化していると言われても仕方ないだろう。
- ◆「教師の教え方」の研修から「学びのデザインとリフレクション」の研修へと転換することである。
- ◆授業の有効な「教え方」は一つではない。100の正解がある。
- ◆事前の研究(指導案づくり)よりも、事後の研究(リフレクション)を中心に研究授業と授業協議会を行う必要がある。(pp.124-125)


44



45



46



日本語教師のための十か条

- ①クリエイティブに仕事に取り組むことができる。
- ②失敗を次のステップに繋げることができる。
- ③物事・事態に柔軟に対応できる。
- ④迅速かつ確に判断し、決断することができる。
- ⑤マイクロ・マクロの両面で物事を捉えることができる。

47

- ⑥予測・推測ができ、見通しを立てることができる。
- ⑦クリティカルに捉えることができる。
- ⑧内省しながら実践することができる。
- ⑨自己開示ができ、また相手の立場に立って物事を考えることができる。
- ⑩「協働」を大切にして、仕事を進めることができる。

48

参考文献:

The National Standards in Foreign Language Education Project (ACTFL)(1996). *Standards for Foreign Language Learning: Preparing for the 21st Century*. American Council on the Teaching of Foreign Languages.

佐藤学(2015)『専門家として教師を育てる～教師教育改革のグランドデザイン～』岩波書店

嶋田和子(2008)『目指せ、日本語教師力アップ～OPIでいきいき授業～』ひつじ書房

多田孝志(2006)『対話力を育てる～「共創型対話」が拓く地球時代のコミュニケーション』教育出版

49

平田オリザ(2012)「日本語教育と国語教育をつなぐ「対話」鎌田修・嶋田和子編著『対話とプロフィシェンシー』pp.28-44、凡人社文化庁文化審議会国語分科会(2018)『日本語教育人材の養成・研修の在り方について』(報告)

【教科書】

嶋田和子他(2011)『できる日本語 初級』アルク

嶋田和子他(2012)『できる日本語 初中級』アルク

嶋田和子他(2013)『できる日本語 中級』アルク

50



嶋田先生のエネルギッシュなご講演